

平成29年度改訂 学習指導要領を踏まえた中学校の授業づくり ～「主体的・対話的で深い学び」の実践的研究～

Middle school curriculum development in light of the 2017 Revised Course of Study : A practical study of “active learning”

田 口 康 之

Yasuyuki TAGUCHI

I. 研究の目的

本研究は、「平成29年3月告示学習指導要領」において示された主体的、対話的で深い学びについて、その趣旨の解明とともに実施の授業の過程においてどのように実現できるかを探り、子どもに見通しを持った授業づくりに資するものを得ようとするものである。

【具体的研究目的】

- (1) 新学習指導要領及び保健体育科学習指導要領解説に関わる目標・内容から、「主体的・対話的で深い学び」について整理し、球技領域【ネット型：バドミントン】の授業を実践し検証する。
- (2) その中で「主体的・対話的な深い学び」の活用をどのように行うか等検討しつつ授業づくりをし、実践、状況の記録検証、その結果から改善点など課題を整理し、今後の授業づくりの提言を示す

II. 研究の方法

- (1) 研究の目的を達成するため、主体的・対話的な深い学びのとらえ方を整理する。
- (2) (1)の上で、生徒たちの興味関心を引き出し、保健体育科の目標に準拠できる指導計画を作成し、その基に実際の中学校で授業を実践し検証した。
- (3) 検証には、生徒へのアンケート調査とともに、期間記録(マネージメント場面、学習指導場面、運動学習場面、認知学習場面の4項目)と教師の相互作用行動(技能指導やフィードバック行動)の頻度を数値化した。を記録して行った。

III. 研究結果の概要

- (1) 新学習指導要領における「主体的・対話的な深い学び」とは次のように整理した。
【主体的な学び】とは、学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる力。

【対話的な学び】とは、仲間同士の協働、教職員との対話などを手掛かりに自己の考えを広げ深めこと

【深い学び】とは、習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより

深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすること。

(2) 主体的・対話的で深い学びに着目した授業づくり

①球技【ネット型・バドミントン】の教材観及び研究の視点

球技は、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、協力して得点を重ねたり、防御したりしながら、勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうものである。そのため、話し合いを通し学び高め合える領域であると平成29年学習指導要領にも明記され、高橋らの研究においても先に示されているところである。また、K市の中学校保健体育研究会の昨年の調査でも作戦や技の習得及び活用がし易いと8割の教員が答えている。加えて、本研究に協力いただいたK市立中学校の保健体育科教諭からの願いもあり、生徒の7割が経験したと答えたバドミントンを研究の種目として、実践的な研究を進めることとした。本研究は前年度の研究を踏まえたものである。

②授業のねらい

新学習指導要領でのねらいである「思考力・判断力・表現力の育成」、「技能・知識」の習得と活用、体力の向上を柱に「主体的・対話的な深い学び」を授業づくり

の方法として指導計画及び指導案を作成した。具体的には、4人で課題解決に向けた役割を設け、その課題

達成のためのゲームや練習を実施する。その中で、話し合いの深まりを検証していく。課題に向けては、課題設定とグループの人数、タブレット、ミニホワイトボード、学習カードの活用を工夫した。

③検証授業の概要

○実施校：K市立第二中学校

○授業実施校種・学年：中学校1年男女37名

○日時：平成30年10月3日（水）5限

○指導教員：K市立中学校保健体育科教員 男子37歳（経験15年）

○テーマ：運動・スポーツの楽しさや喜びを育むための思考力・判断力・表現力の育成～主体的・対話的な深い学びを通して～

○領域及び種目：球技「ネットボール型」バドミントン

○授業形態：バドミントンの授業において、4人のグループで、生徒自身で課題に取り組み、ねらいに迫る。

○方法：1時間目の授業を分析し、2時間目の授業に介入し、あらたな授業づくりを行う。授業の展開では、常に4つの課題と4人の役割りを設けた。

課題A 審判及びルール、安全面などの態度

課題B ストロークの状況とポイント

課題C 身体の動き（上半身・下半身の動き、ステップなど）

課題D シャトルの飛び方やコースなど（ポイントの取り

A～Dの4つの課題の課題グループでの課題のとらえ方を共有するための練習と話し合いを毎時行い、その後練習グループに分かれ練習を行う。

④本授業のまとめ

【期間記録から】

	学習指導	マネージメント	認知学習	運動学習	合計
1時間目	6分50秒	5分10秒	6分15秒	22分25秒	40分40秒
2時間目	5分10秒	4分20秒	9分10秒	27分30秒	43分10秒

【生徒へのアンケートから（1時間目終了後及び2時間目終了後）】

*数値は、1・2・3・4の4段階の評価とした。

	楽しかった。	技能が伸びた	話し合いが深まった	課題が解決した	いっぱい運動した	主体的にできた。
1時間目	2. 9	2. 6	2. 6	2. 3	2. 9	2. 5
2時間目	3. 5	3. 0	2. 8	2. 5	3. 5	2. 7
平均	3. 2	2. 8	2. 7	2. 4	3. 2	2. 6

（考察）1時間目の授業は指導案通りに実施し、2時間目の指導前に1時間目の結果や授業について分析し、教師からの指導を減少させる工夫、マネジメントの減少、認知学習の増加、運動学習の増加などの観点で2時間目の授業を改善して実施した。

2時間目の授業結果は、教師からの学習指導は2分弱減少し、生徒相互の認知学習の場面が3%の伸びを示し、生徒の運動量では5%の顕著な伸びを示した。

生徒のアンケートの結果では、全ての項目で2時間目の授業の数値が向上しているが、話し合いの深まりと課題解決は微少の向上であり、主体的であったかは、0.2Pの向上からは言い切れないところである。

Ⅳ. ま と め

「主体的・対話的な深い学び」の内容整理を行い、その内容を明確にしたうえでのバドミントンの指導計画と指導案づくりと、その50分の展開において「主体的・対話的な深い学び」を意識した授業にすべく、授業づくりを行うことで、新たな授業の工夫やグループへの課題の投げかけ方について検討することができた。授業の検証では、タブレットを用いた期間記録と生徒へのアンケートについては、今後の授業づくりの方向性を示すうえでは貴重なものとなった。運動量や話し合いの時間、指導の時間等の改善には役立ったと言える。しかしながら研究のねらいであった「主体的・対話的な深い学び」ができたかとは、生徒のアンケート調査にも微少の向上しか見られず、今回の授業づくりにおいては他の領域や検証授業の増加などの課題が残った。今回の研究は、2時間の授業であったが今後指導計画の時間全てでの検証を行い、学校現場での「主体的・対話的な深い学び」のとらえ方の理解を深める研究がさらに必要と考

える。

本研究は、昨年に続きK市の中学校の協力を得て行うことができ、関係の先生方や生徒に感謝する。

参考文献

- 1) 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策などについて（答申）」（平成28年12月21日 中央教育審議会）
- 2) 中学校学習指導要領 文部科学省—平成20年3月告示—
- 3) 中学校学習指導要領解説保健体育編 文部科学省—平成20年9月—
- 4) 中学校学習指導要領 文部科学省—平成29年3月告示—
- 5) 中学校学習指導要領解説保健体育編 文部科学省—平成29年7月—
- 6) 保健体育科教育法 大修館 杉山重利・高橋建夫・園山和夫共著 平成25年4月
- 7) 図説新中学校体育実技 大日本図書 監修 細江文利 平成29年3月
- 8) 体育科教育「学習指導要領の改訂」新時代の体育を求めて 大修館